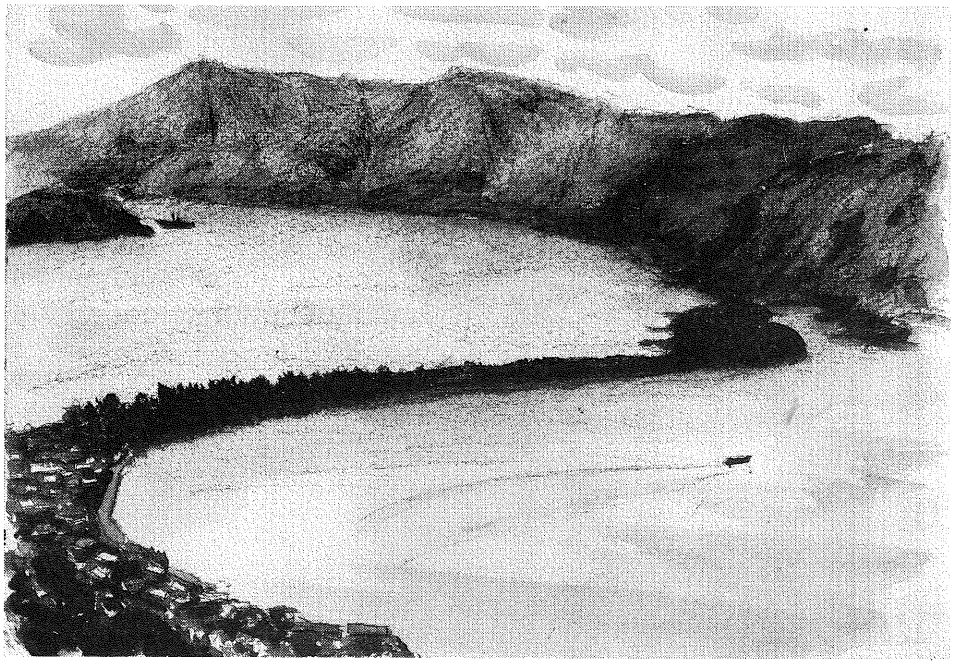
京橋の印刷

1月20日1997・No.96

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1－16－8
日本印刷会館3F　電話 3552-1855
FAX 3297-3790

発行人
十文字　康　雄



傘松公園より「天の橋立て」を望む
チャーチル会　児玉昭太郎作（銀座地区）

ゆく年くる年

副支部長　山崎隆三

一九九六年、前年末に村山首相に代わって橋本龍太郎氏が内閣総理大臣になり大相撲の一月場所でこれも初優勝の貴ノ浪に優勝賜杯（内閣総理大臣杯）を渡すべく国技館の土俵に登場した折には初々しく時代が変わりそうな印象を与えた。それにもまして平成八年は干支で言うところの丙子（ひのえね）の年であった。古来鼠は大黒様のお使いとして富を運ぶ縁起の良い動物として、又、人間を助ける動物としてきた。我が国最古の書物といわれる古事記には大国主の神（大黒様と同じ出雲系の神様）が黄泉の国へ行った折、鼠に助けられたと言う下りがある。明治政府は明治十八年に最初の日銀券を発行したが、紙幣の図柄は大黒様と鼠であった。この紙幣は大黒札として一円券、五円券、十円券、百円券の四種類発行されたが、このように鼠は景気の水先案内と言ってよく、景気の上昇を大いに期されたが、一向に良くならなかった。

新年一九九七年は平成九年、干支で丁丑（ひのとうし）どのような年になるのか暦のうえからではあるが予測してみたい。まず政治であるが、橋本首相は六〇年前の昭和十二年生まれの丑年で、それ迄トンネルのなかにいたものが、すこしは陽が当たってくる陽運を迎える。しかし首相の座は極めて変化が多く、ことによると政権交代等がおこるかもしれない。その為に首相も各党間とのかけひき、根回しが必要に迫られるであろう。いずれにしても首相が何かやろうとしても邪魔が入りやすいのではないか。

我々が期待する経済とくに金融の面であるが、銀行の統廃合がより進みそうである。又、銀行等の金融機関の隠れたものが表面に現れるのではないか。しかし融資の全面ストップ等ということはないと思われる。むしろ平成十年にそのような事態になりかねない。

我々の印刷業は先号で十文字支部長が述べているように「紙に情報を乗せる」ままの業態が維持できれば、多少光が当たって来るのではないか。紙以外の媒体への情報の伝達が日進月歩の速度で進んでいる為に予断は許されないであろう。

当たるも八卦当たらぬも八卦といわれるが、自重して上手な処世がより必要になるであろう。

本文執筆にあたり先輩の久栄社の田畠社長には多大のご指導を頂いた。紙上をかりてお礼を申し述べたい。

第二回研修会開催

「消費税の改正と地方消費税のあらまし」について

八月二三日(金)午後五時より午後六時三〇分まで約一時間三十分にわたり、平成九年四月一日より実施される消費税四%プラス地方消費税一%(消費税の二五%)計五%の増税について、京橋税務署法人課税等三部門総括上席調査官渡辺一雅殿を講師に、全印健保会館会議室で、六〇名を超える支部員が参加して熱の篭った研修会が開催された。

不況の続く経済界で、税金の減収による財政建て直し、二七〇兆もの赤字財政を少しでも減らす手数として実施されるのが、国民一人ひとりに応分の負担をさせ、公平に税金を取り立てるこの方式に、黙って耐えて、経済界、生活にハズミをつけ、増え続ける赤字財政に応分の負担を、我々印刷業はじめ全産業に携わる産業人並びに消費者に負担を掛け、これからの高齢化社会に対する高福祉政策を充実するという、名目の徴税に目を瞑って協力しなければならない。これにより従来の三%が一%の増額により、少しでも明るい見通しがつけば、福祉政策に寄与する源資の確保が可能となるが、このような不況の中で、果して計画通りに進んで行くのか、経済界に明るさが僅かばかり好転したという経企庁の発表であるが、一般は見通しは相当暗いというのが実情である。その中で、公平に負担して行く消費税の理解促進の為の解説が行われた。

一、消費税の税率が変わります。

(1)消費税と地方消費税を合わせた税率は五%になります。

五%の内訳は消費税四%(現行三%)と地方消費税一%(消費税額の二五%)となります。これは社会保障等に要する費用の財源を確保、課税の適性化、その他行財政等を総合的に勘案するということです。

(2)税額の一円未満の端数を処理するときは、五%を前提に行う。

端数は、切捨てでも、四捨五入のどちらでもよい。

二、中小事業者に対する特例措置が改正されます。

(1)事業者免税点制度の見直し

事業年度開始の日における資本又は出資の金額が一千万以上である法人については、納税義務は免除されません。

(2)簡易課税制度の適用上限額が変更となります。

簡易課税制度の適用することができる課税売上高の上限が現行の四億円から二億円に引き下げられます。

(3)限界控除制度は段階的に廃止されます。

限界控除制度の廃止により、その課税売上高が三千万円以下の場合でも、納付税額が生じることになります。

三、仕入税額控除制度が改正されます。

(1)課税仕入れに係る消費税の計算方法が変わります。

〔課税仕入れに係る消費税〕＝〔課税仕入れに係る支払対価の額(仕入金額)〕×$\frac{4}{105}$〔現行は$\frac{3}{103}$〕

仮受消費税、仮払消費税は5/105を掛ければ良い。

(2)仕入額控除の適用要件として、帳簿及び請求書等の保存が必要となります。

課税仕入れ等の事実を記載した「帳簿」及び「取引の相手方が作成した請求書等(請求書、納品書、領収証等)」のいずれも保存する。(五年保存)

四、中間申告、確定申告関係の政正事項

(1)消費税と地方消費税の同時申告(納付)

消費税と地方消費税(譲渡割)は、納税義務者及び申告(納付)期限とも同じであり、消費税と地方消費(譲渡割)とを併せて税務署長に申告し、国に納付することになります。

(2)確定申告書等への明細書の添付が必要となります。

課税期間中の資産の譲渡等の対価の額及び課税仕入れ等の税額等に関する明細書を添付しなければならない。なお仮決算による中間申告書及び還付請求書についても適用されます。

(3)中間申告を要するかどうかの判定基準となる金額が変わります。

	直前課税期間の確定消費税	
	現行	改正
年三回の中間申告	五〇〇万円	四〇〇万円
年一回の中間申告	六〇万円	四八万円

五、届出等手続関係の改正事項

(1)新設法人に該当する旨の届出書の提出関係

「消費税の新設法人に該当する旨の届出書」を速やかにその納税地を所轄する税務署長に提出しなければならない。

(2)届出書の提出時期の特例の承認申請手続関係

【特例の適用を受けようとする届出書の名称】　【承認申請書の名称】

①消費税課税事業者撰択届出書……

②消費税課税事業者撰択不適用届出書……

⇩

消費税課税事業者撰択（不適用）届出に係る特例申請書

③消費税簡易課税制度撰択届出書……

④消費税簡易課税制度撰択不適用届出書……

⇩

消費税簡易課税制度撰択（不適用）届出に係る特例申請書

六、税率に関する経過措置が設けられています。

(1)旅客運賃等に関する経過措置

(2)電気料金等に関する経過措置

(3)請負工事等に関する経過措置

(4)資産の貸付に関する経過措置

(5)役務の提供に関する経過措置

(6)予約販売に係る書籍等に関する経過措置

(7)発売日が適用日前の雑誌等に関する経過措置

(8)通信販売に関する経過措置

(9)有料老人ホームに関する経過措置

(10)(1)から(9)までの経過措置に係る仕入税額控除等

(11)その他の経過措置

七、地方消費税の概要

(1)納税義務者

消費税の納税義務者が地方消費税の納税義務者となります。

(2)課税標準

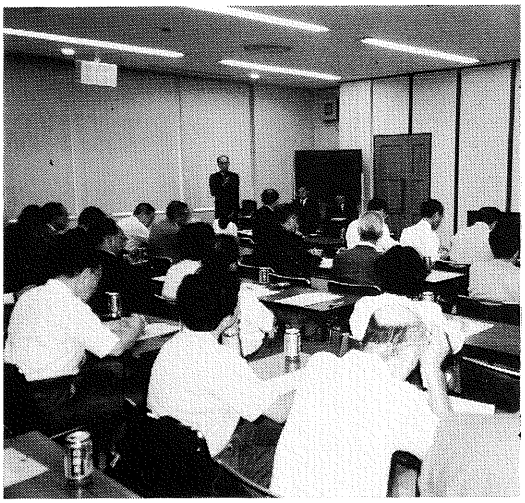
イ、国内取引については、課税標準額に対する消費税額等を控除した後の消費税が課税標準となります。

ロ、課税貨物の保税地域からの引取りについては、保税地域からの課税貨物の引取りにつき課される消費税額が課税標準となります。

(3)税率

消費税額の二五％（消費税率換算で一％）です。

(4)申告・納付



イ、消費税の確定申告を提出する義務がある事業者は、消費税の申告期限までに、消費税の申告と併せて税務署長に提出し、申告した地方消費税を消費税と併せて納付します。

ロ、課税貨物を保税地域から引取る者は、一定の申告書を国の消費税の申告書と併せて税関長に提出し、申告した地方消費税を消費税と併せて納付します。

なお詳細について知りたい方は、貴社担当の公認会計士、会計士、税理士等の方々に設明を受けて下さい。また京橋税務署管轄の事業所の方は、電話三五五二―一一五一（内線三一六～八）にそれ以外の方は管轄税務署に直接お問い合わせ下さい。

（京橋地区細田益造）

〝敬老の集い〟

於・明治神宮
9月24日㈫

錦秋の良き日に組合本部恒例の〝敬老の集い〟が催され各支部からも多数出席し盛会裡になごやかな一日であった。

当支部からは十文字支部長小倉区長（本部厚生委員）が諸先輩に随行して出席した。

写真前列右より、藤井様、小林様、斎藤様、石沢様、久保田様、後列、十文字支部長、安西様、山中様、小倉区長

'96中央区産業文化展

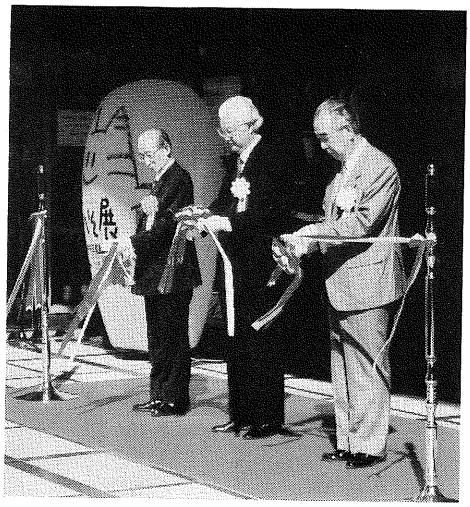
10月16日～19日
日本橋プラザ

'96中央区産業文化展が去る十月十六日より四日間の会期で日本橋プラザで行われた。中央区における産業活動について、その歴史的歩み、現状及び未来への展望等を広く都民及び関係業界に紹介し、区内産業の振興発展に寄与すると共に、地域産業に関する青少年の教育にも資することを目的として開催されたものである。私達京橋支部は日本橋支部と共に、デジタル化への取組みの一端として、「デジタルカメラによる画像取り込み→コンピュータ加工→カラー出力→製本」の流れを実演したが、初日から希望者が殺到し、用意した資材が不足するほどの活況を呈した。

特筆すべきは機材出展メーカーに全ての操作を依存することなく、デジタルカメラによる撮影からマッキントッシュによる画像処理、ピクトログラフィーによるカラー出力までの一連の操作を京青会の二十名を超えるメンバーの大車輪の奮闘により、的確に処理し得たことである。

日頃のデジタル化への取組みの姿勢と、事前の研修会での積極的な技術の習得がこの成果をもたらしたものと思われる。

さて、次回の産業文化展は、工業文化展としてスタートしてから通算十回目を数える節目となるが、当支部としては展示スペースに制約があるにしても、デジタル化への傾斜一辺倒の出展ではなく、「印刷とはこんなにも楽しく、難しく、そして文化的な仕事」だということを広く知らしめるような展示内容にしたいと思う。



中央区産業振興懇談会開催

去る十一月三日㈫午後六時より中央区役所にて、「中央区産業懇談会」が開催されました。この会の主旨は区が平成三年度から五年間かけて「商工業振興基本計画」を策定してきたのに続き、今後の施策実施に際し、区内産業の経営環境の実態をなるべく具体的に把握し、計画に反映させてゆこうという意図で、区側要請によるものです。

今回対象となったのは東印工組の京橋支部と日本橋支部で、京橋から執行部と数地区からのメンバー及び京青会幹部の十名、日本橋から石川支部長以下六名が参加。区側からは成蹊大学経済学部相原修教授が座長で、鈴木助役以下関係部課長約十名が出席しました。

鈴木助役の冒頭主旨説明に続き、相原教授の挨拶があって本題に入りましたが、一応テーマとした「印刷技術の変化と区内印刷業の今後の展望」「業界における情報化への取り組みと今後の人材育成」を根底におきつつも、幅広く業界全般の諸問題に範囲を拡げ検討することにしました。

先づ十文字部長が業界説明に入り、印刷業界と区行政がこれまで必ずしも太いパイプでつながれていたとは言えないが、こうした会を契機に距離が縮まれば喜ばしいとした上で、業界の直面する諸問題となすべき課題、区行政に対する要望など広範囲かつ明解に説明いたしました。続いて、京青会森山副会長が人材育成機関の提案や、住環境の不備の指摘と要望を、日本橋支部石川支部長がこれまでの事例を引用した諸問題の解説と支部事情を説明いたしました。その後はフリーな形で他出席者からも、工場認可を始めとする行政サイドの諸規制が区内印刷業の阻害要因となっていることとか、諸々の意見が提出されました。

今回はなるべく業界からの説明のヒヤリングを主体にという区側の意向で、詳細な回答は次回に継続することとし、最後は茂木企画部長より区が目下検討中の「広告博物館（仮称）」の説明がなされ、二時間に及ぶ懇談会が終了しました。

支部幹事会開催

11月21日㈭、18時30分より銀座東急ホテルにて、京橋支部幹事会が青柳副支部長の司会・進行で開催されました。

はじめに十文字支部長が挨拶して、日頃の支部運営に対する尽力への感謝と、今後の協力を要請しました。続いて中山湊地区副地区長が〝乾杯〟の音頭をとり、全員これに和して乾杯しました。しばらく雑談した後、各地区長から地区幹事の紹介があり、1人1人大きな拍手を受けました。

紹介のあと各地区代表によるカラオケ大会が催され、宴会も盛り上がり8時30分中締めは伊森新川地区長によって3本締めでお開きとなりました。

顧問・相談役・参与の会

12月11日㈬17時30分から、銀座東急ホテルにて、現執行部による第2回の顧問・相談役・参与の会が多くの方々の参加のもとに開かれました。

当日は榎本副支部長が司会・進行役となり、開会のあいさつを行ったあと、十文字支部長が「我が国の経済は緩やかな回復基調にあるといわれて、すでに両3年を経過しているにも拘らずその回復の実感が中小印刷界には全くないのが現状である。産業の空洞化、度重なる用紙の値上げ、顧客からの値下げ圧力、そしてデジタル化の急速な進転と、試練の時代を迎えていると云えるのではないか。しかしこの厳しい環境の中にあって、当支部は個々の企業の自助努力により最も活気のある支部として見られているのは幸いである。」とあいさつし、支部事業の経過報告と今後の事業予定の説明がありました。

その中で、当支部より4名の方々が各種表彰を受けられたことが披露され、先づ水野雅生氏（ミズノプリテック㈱）が日本印刷産業連合会・印刷月間記念式典で特別賞、田畠一弥氏（㈱久栄社）、久保田幸一郎氏（東京眞宏印刷㈱）の両氏が東京都中小企業中央会創立40周年記念行事で東京都知事感謝状、篠倉正信氏（㈱ディグ）が中小企業労務改善指導で東京都労働経済局長感謝状がそれぞれ受賞されたことで出席全員から盛大な拍手を受けました。

続いての報告は、この2ヶ月の間に支部の大

先輩であった㈱相互美術印刷本社の小倉武治会長、㈱白橋印刷所の白橋龍夫会長、正進社印刷㈱の高橋茂会長と誠文社印刷㈱の荒川佐吉取締役相談役の4人の先達をお見送りしなければならなかったことは非常に辛い思いであったと話されました。

このあと、久し振りで当会に出席された小宮山印刷㈱の小宮山会長よりあいさつがあり、続いて石澤顧問の若々しいご発生で〝乾杯〟を行いました。

食事を執り乍らの意見交歓に会も盛り上り、支部長あいさつで紹介のあった受賞された4方の受賞の喜びの言葉をお聞きしました。また、白橋様と荒川様からは故人を偲んで生前の業績や人となりなどのお話しがありました。**横田記**

地区だより

築地地区旅行記

八月末になって、台風十四号が関東沿岸に向かって北上しているとの天気予報が流され、九月上旬に予定している旅行会の催行に当たって、その日の空模様が心配された。しかし、九月六日㈮の当日の朝は、暑さもぐっとやわらぎ、まづまづの天候となって無事出発することが出来た。

今回は全旅程の一泊二日を観光バスをチャーターしての旅行会である。

朝八時三十分、約束通りに築地三丁目態谷印刷の社屋前に王子観光バスはやって来た。参加メンバーは築地地区の十一社、十一名である。今迄の旅行会で何度となく道路の渋滞に悩まされて来たので、今回も一番に道路状況が心配であったが、首都高速の難所である箱崎インターチェンジを順調にぬけることが出来、東北道を快走して、午前十時過ぎには館林インターを降りて市内に入った。一般道に入っても、順調な道路状況で閑かな街道を過ぎて行く。市内をはずれたのか、あたりは黄緑色のジュータンを敷きつめたような稲作水田地帯と変って、その中を泳ぐようにバスは進む。目指す大日本インキ化学工業(様)の群馬工場はもう直ぐだ。

この関東平野に流れる利根川と渡瀬川に狭まれた大田園地帯、群馬県邑楽郡千代田町と云うところに大工場はあった。威風堂々その正門を入ると広大な敷地には、空港の格納庫のような大きなビルが二棟並んでいる。

今回の工場見学には、筆者が永い間お世話になっているメーカー代理店の湯川商会のお世話になった。お力添えをいただいた社長さんも爽やかな笑顔で出迎えてくれた。

二階の応接間に通され、大きな円卓テーブルを囲んで我々一行が席につくと、早速工場側より型通りの挨拶があってこの工場見学の進行等の説明があった。

この最新鋭の群馬工場は、五年程前に建設され、工場敷地は約五万坪と云う。敷地周囲には、三十メートル幅のグリーンベルト地帯が施され敷地の約20%に相当する。

この工場緑化対策の推進により、㈶日本緑化センターより表彰を受けたことがあるそうだ。

その見事なる環境整備に思わず溜息が出る反面、我々の事業所と云えば、何と狭苦しい処で働いていることかと思うのだが、中央区内ではこの様にゆったりとした、しかも緑の環境を伴った工業団地は夢の又夢にして到徹叶えられることではない。

ここ館林市は、分福茶釜の話の舞台として有名な茂林寺があり、現美智子皇后陛下の故郷でもある。大日本インキの創始者もここ館林の出身であると聞いた。

さて工場は西側半分の一棟が、PS版製造工場で東側半分が印刷用インキの製品仕上げ工場となっている。ここでは黄色、赤、藍の三種のインキが製造されている。そしてこの工場で働く人は男女半分づつで計180人であると云う。彼等は全て車で通勤しているそうだ。

PS版工場は4直3交代で24時間稼動、インキ部門は土日休みで2交代制と聞いた、又インキ工場は当初、労働集約型で、手作業に負うところが多かったが、この新鋭工場は、自動化合理化が徹底され、広い工場内に人はまばらである。

大日本インキ化学工業株式会社は本社を中央区日本橋に置き、資本金824億円、従業員数七四四九名、国内事業所として、一支社九支店、20営業所、20工場と云う規模である。最近の売上高四七四，四二四百万円であり、つい最近の新

聞（九月9日東京新聞夕刊）の記事として、1995年度決算で化学メーカー売上高順位は業界三位であることが報道されていた

創業明治四十一年、東京で川村インキ製造所としてスタート昭和12年に大日本インキ製造株式会社として法人化された。印刷インキから色彩化学へそして高分子科学、総合化学分野へ発展し、益々活発な事業展開をして拡大している。

工場の中島総務部長より説明を伺って約一時間の工場見学をさせていたゞいた。

インキ工場では1kg缶、10kg缶、200kgドラム缶の注入作業が行なわれていた。これも殆んどの工程が、オートメーション化されていて、空缶がコンベーヤーでコンピューター操作をされながら流れて行く。そして自動的にそれぞれの缶にインキが注入され、最後にダンボール箱につめこまれ、出荷場へ送られゆくのだが、この間殆んど人の手に触れることは無い。インキ缶に人間の指紋がつくことは全く無いと云う御自慢の工程である。別工場で90％位既に完成された材料がこの工場へ送られて来て、若干の化学製品を混入、完成品となると云った具合である。勿論缶にラベルを貼るのも機械が行う。次にPS版工場――ここにはポリクローム・ジャパンと云う名称の別会社工場であるが、昭和54年大日本インキの傘下に入り、販売は大日本インキが行っている。実川工場長の案内で大きな工場へ足を運んだ。

260mの二本のラインがあり、原材料のアルミ板が長い工程を流れてゆく、そのうち様々な加工が施され約二〇〇〇種類の製品が出来上ると云う。工場の二階の部分に周り廊下があり、その窓ガラス越しに生産工程を見学した。

正午少し過ぎて見学は終了し、昼食を御馳走になった。フランス料理の達人コックさんが当工場の食堂を賄っているとか誠に美味しい食事を味わった。（多謝）

午後一時、事業所前にて、一同記念写真を撮って又バスに乗込んだ。

大工場を後にしたバスは国道三五四号線を走る。関東平野の水田地帯にいくつもの大工場が車窓に映った。サントリー、富士通、サンヨーと云った我国産業の大手メーカーの工場が点在していた。

利根川に掛かる刀水橋を渡って熊谷市内に入り、一四〇号線を行くと、関越自動車道花園インターへ着いた。高速道、一般道、そして狭い山あいの道を登って、山あいの道を登って、予定より早く午後三時四十分目指す四万温泉郷へ入った。

四万温泉は、越後に接する山々に囲まれた四万川の上流に、温泉口、山口、新潟、日向見と四地区の温泉が三キロにわたって続く湯の里である。宿は40軒近くあるが、歓楽街などは無く、その爽やかな自然と健全さから国民保養温泉の第一号に指定されたと云う。

ここの温泉は千年の歴史があると云い、最も古い旅館は五百年も続いているとか、我々が泊る「四万やまぐち館」は温泉街の入口にある和風の建物で、やたらと提灯がぶら下がっていて、浅草へ来た様な雰囲気だ。

とにかく、早目に着いたのでゆっくりと温泉につかった。四万川の渓流に臨んだ広い露天風呂は最高の気分にしてくれた。清らかな水の流れの対岸は高い崖になっていて、そこには滝があり鬱蒼とした樹木が生い茂っている。まだ紅葉はしていないがその木の葉の緑が目に浸みる。一時（ひととき）の間全てを忘れて、夢の中にいる様な気持で湯に漬かって命の洗濯をした。

夜は山菜料理を摘みながら地酒に酔い痴れた。幹事としては、目下のところ不況のどん底で歌など歌える気分ではなかったが、仲間の声援を受け、会員がいつしか思い想いの歌をカラオケ

にのって披露し、宴は盛り上って行った。

一夜明け次の日は帰路、いよいよ天国から地獄へ逆もどりだが、新名所「薬王園」に立ち寄った。中之条町のJA沢田が経営し今年五月に完成したばかりの「薬草テーマパーク」で、26ヘクタールの広大な園内に約五百種の薬草、薬木栽培園があり、中国北京医薬大学などの協力を得て作成した薬草の標本約千点を展示した薬王館、漢方薬局、薬膳レストランやハーブガーデン、果樹園、自然園地が広がっている。

園内を少し散策して、ハーブガーデンや、薬王館を見て廻った。午前十一時半、少々早目なれど、昼食をとることとした。観光案内等によると、「名物の薬膳料理は健康によい素材を使ったものであり、高価な鳥骨鶏のスープ、鶏肉を高麗人参で巻いた焼物、はと麦粥、モロヘイヤ豆腐など、味付けがしっかりとしてなかなかいける。」と書いてあったので、初めての経験となるが一度試しに味わってみようかと云う事で、その園内の薬膳料理レストランへ入ってみた。

がしかし、これは大失敗、見た目には普通の山菜料理かなと思われる盛りつけで品数も多く一見豪華に見えたが、味が薄く、何だか高血圧の病気で出される味けのない粥で、正直云って良くなかった。親愛なる我同志は、それでもあまり文句をも云わず召し上ってくれた。ある人がそれとはなしに「もう一度喰べたいという気分にはなれないないね」と呟いていたのが印象的だった。

帰路は浅間山がそびえる軽井沢を抜けて、関越自動車道で東京へ向った。

帰路のバスの中で、普段はあまり目を通さない「東京の印刷」を何げなく読んだ。その中に、板橋支部の方の一文が目に入った。云わく「勿論、自由競争の世の中であるから、弱者劣敗も止むを得ないが、ここで組合活動の相互扶助の精神を発揮して、大きな会社は支部内の会社に業務を外注するようことを最優先したらどうか。そのことにより、多少なりとも仲間意識が強化され、一歩進んだ知恵も出て来ようというものではないか。云々――」とあった。

ともかく嫌な時代になったものである。不況の波はいつ治まるのか予測も出来ない。筆者も打ち続く不況のどん底の中で、組合に入って良かったと感じるために、お仲間から仕事を廻してもらいたいと、何度思った事だろうか。しかし、これは仲々難しい問題なのだ。早い話が、簡単な仕事ならばダイレクト製版で安く早くやってくれる業者がいくつも出て来ているし、安く発注して利益を余計に上げたいと思うのも人情だ。

午後五時半渋帯していて築地まで辿りつくまでまだ時間がかかりそうだ。バスの窓から林立する高層ビル群を眺めながら考えた。

どんな仕事にせよ巡り会うのも何かの縁であり、努力の結晶なのだ。湯煙り湧き立つ天国より現実へ戻って来たのだ。来年も又楽しい懇親旅行が出来るように、腹を決めて頑張う!!。とかく愚痴の出る弱い自分に挑戦して力強く生き抜いてゆきたいものだ。

「何のために組合に入っているのか――先代が組合に入れてもらっている頃、自分は全く組合活動には無関心で、父親の後に続いて組合の力でお世話になろうとは毛頭考えていなかったし、むしろそうなることを意識的に避けていた。その後、人生半ばにして考えたるは、人間生まれて何を残すのか、財産、名声、功績、と云ったものを残すのか、自分は、人間として生れて来て良かったと思える想い出を残そうと思った。それには、どれだけ多くの人と接するか、様々な人とめぐりあって、その折々との思い出が、金の想い出として、どれだけ印象的に鮮烈に残せるか、極力、感動的な思い出を数多く残して、自分の人生の財産としたい。

そんな思いで同業のお仲間の人との触れ合いを大事にしたい、と願って組合に入れもらう事にした。

我が築地地区では一番貧弱な会社が地区長として代表とならせていただいていることは、伝統ある築地の名を汚すのではないのか、誠に忸怩たるものがある。昨年或る経営セミナーに義理があって参加した折、「組織活動で大事なことは、①そのリーダーが人間性豊かな資質をもっているか、②参加しているメンバーが互いに助け合う精神に立っているのか。③その組織活動に、如何なる哲学があるか。

この三点であると聞いたことがあった。偉らそうな事は云えないが、築地に育って築地で商売をさせていたゞいている。信州生れであるか、

第二の故郷として築地の街には愛着がある。誠実と努力で、何としても頑張って行きたい。午後六時半、やっとバスは築地へたどり着いた。無事解散である。

（春原記）

京橋地区　研修旅行会

九月二十七日㈮二十八日㈯にかけ二年に一回の一区（我々は京橋地区をこう呼ぶ）の研修旅行を開催しました。

当初の予定では大蔵省印刷局小田原工場を訪問し紙弊になる迄の全行程を研修する計画にて全て準備が完了していた所、訪問日近くになり防災訓練の為、見学は不可能との連絡が入り、幹事として大変困ったが幸いにも三島にある、特種製紙㈱本社工場の紹介を受け、予定通り晴天のもと東京駅に集合。新幹線にて一路三島に向った。現地では取締役副本部長杉原泰氏より歓迎のごあいさつをいただき、引続き課長野田昌宏氏より説明を受けた。

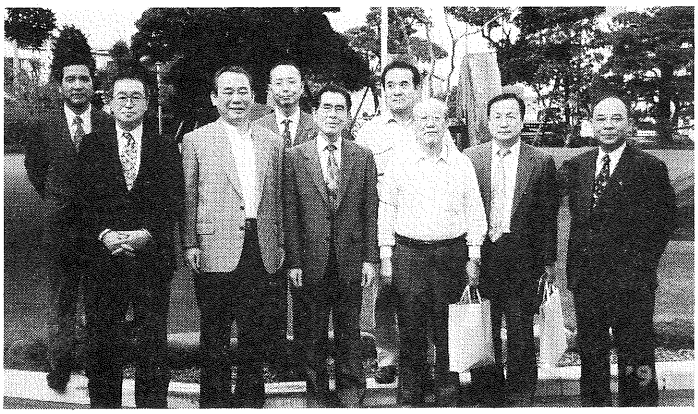
富士山から熔岩が流れ、その下の水が伏流し一年中安定した良質で、豊かな用水が確保出来るこの場所に工場があり売上二五五億円生産量七万トン（96年3月期）。製紙メーカーとしての順位は二〇数番目、シェアは0.2％～0.3％、新王子製紙、本州製紙の合併に見られるように製紙メーカーの順位は上と下の較差は大きいが、マークシート、ＯＥＲ、大学入試受験用紙等情報用紙、工業用雑種紙、ファンシーペーパーの生産シェアは七〇％を越える。そして常に、より高い印刷性をもった紙、耐水性、燃えにくさ、美しさ等を追求し、手スキから先端技術で生産される紙を、①生産システムと技術力②原料パルプを世界中から選んだ良質のものを③伝統ある特殊技術を大切に、生産している。

特に本日は新製品Mr・Bについて説明があり、価格は未定だが、一本一本の繊維に印刷の適性をとらえ、濃度と軽量、そして美しい画像を長く維持する製品の説明を受けた。次に工場での生産行程を見学する。パルプ→パルパー（離解）→リファイナー（叩解）→ミキシング（調合）→長網通し（水切り）→ドライヤー（80°～90°）→シーズニング（温度）→欠点抽出→カッター→自動包装等、最新設備によりパルプから完成品になる迄の行程を見学する。

次に特種製紙㈱の沿革を少々、大正十五年十一月、従来輸入品に頼るほかなかった紙類を製造する目的を以って工学博士佐伯勝太郎氏により創業された。以来昭和二年電気絶縁紙が製造され魚群探知用紙、岩波文庫の表紙等に使われ、昭和二十四年には我々業界と関連の深いファンシーペーパーが開発された。昭和三十八年のオリンピックの年には、ポスター入場券、標的用紙等に使われ大きく飛躍した。あわせてＭＩＣＲ用紙を商品化され、続いてＯＣＲ用紙も加わり膨大なデーターを集中処理する為の光を利用したオプトエレクトロニクス技術による入力システムが開発され商品化された。手形用紙、小切手用紙、商品券、大学の採点システムはその代表である。そしてさらに銀行のオンライン通帳の磁気記録用紙の生産。今ではグラフィックデザイン、ブックデザイン、パッケージデザイン分野のファンシーペーパー、データー処理を目的とした情報用紙、さまざまな産業分野で特徴を発揮する工業用雑種紙等五千種をこえる製品のバリエーションをほこっている。

二時間に亘る研修であったが、常に中味の濃いものであった。

三島を後に宿泊先である奥湯河原の〝阿しか里〟に向う。阿しか里は緑に囲まれた閑静な高



台にある純和風旅館であり万葉集に詠まれた湯河原の湯の面影を今に伝え、静かで落ち着いた、たたずまいの宿であり数寄屋造りの部屋からは手入れの行き届いた日本庭園がながめられる風情のある旅館である。一区会員の人数は少ないが皆つわ者ぞろい露天風呂で汗を流し、いよいよ懇親会の始まり、大いにもり上がり二次会へと延長。中秋の名月もクッキリと顔を出し世の中のもろもろをすっかり忘れ秋の夜長を満喫した。

翌二十八日はピカピカの晴天である。ジャンボハイヤーをチャーターし一路真鶴半島に向う。又々勉強でもないが日本洋画壇の重鎮であった文化勲章受賞者、中川一政氏の記念美術館にたちより油彩、岩彩、書等を見学。昨夜のお酒を一掃する為にも汐風に当りながらサボテン公園を自由散歩。寛平元年（八八九年）に創建され村上水軍の末裔を祭る貴船神社を参拝後真鶴半島の先端迄足を伸ばす。昼食は新鮮な海の幸、地場料理を味わい帰途にむかう、全員元気に帰京、次回研修旅行を楽しみに散会する。

末筆になりますが特種製紙㈱ショウルームに展示されていた何点か紹介し終わります。

。魚群深知桟用紙・唐草模様紙・毛入紙・トランプ用紙・傘紙・花札用紙・証券用紙・レントゲン挟紙・青写真用紙・レザーペーパー・名刺用ケント紙・壁紙用原紙・見返、扉、函貼等…おつかれ様でした。

山口順治

銀座地区会親睦旅行記

当地区では毎年秋に地区組合員及び関連業者そして奥様も参加する旅行を行っている。

今年は十月十九日(土)、二十日(日)の一泊二日、総勢二十四名で久しぶりに研修なしで日本三景の一つである京都府の『天の橋立て』へ旅行をすることになった。

第一日目　晴

早朝七時東京駅へ集合。ひかり二〇五号、七時三十一分発で出発。途中、新横浜と小田原で数名乗り込み一路米原へと向かう、のぞみ型の車両のせいか非常に快適で朝からのビールでホロ酔い気分で会話がはずみ、アッという間に米原へ到着した。

米原からは貸し切りバスに乗り、北へ向かう、途中地区長の児玉さんに挨拶をいただき、ご先祖が長浜出身で菩提寺がある旨披露された。長浜はNHKのTVでお馴染の秀吉の最初の領地である。長浜を通過し北陸道を敦賀でおりて三方町へ。三方町では昇寿堂の瀬戸社長推薦の昼食、楽しみな「ウナギ三昧」を味わうことになる。お店の名前は「源与門」、ウナギ、ウナギ……のウナギ尽しで、最後のせいろ蒸しまで一気に食べてしまった。又、お酒もすすんだ食事の最中に面白い話があった。ある地区員の方は家族に「三保の松原」へ行ってくると言って出てきたそうで、新幹線が静岡県をはるかに越えて、滋賀県、福井県まで来てしまって我々は何処へ行くのかと言って皆に笑われていた。確かに「天の橋立」には松の木は沢山ありそうだが、「三保の松原」とはとんだ感違いである。

昼食後は三方五湖の内の一湖の横を抜け（今回の旅行は一泊二日にしては行程が長く、三方五湖はゆっくり見学できなかった。）小浜国宝寺巡りへと向かう。

最初は「明通寺」というお寺でお坊さんの名解説を聞いてからじっくりと見学させてもらった。

次に行ったのは「お水送り」で有名な神宮寺である。毎年三月に奈良の二月堂で行われる「お水とり」の水をこのお寺の井戸で汲み2キロ程上流の鵜之瀬迄運んで流す。流された水は地下水脈を伝わって二月堂下の若狭井に着くと言う水を送るお寺である。お坊さんの説明を聞いたあとO157を心配しながら井戸に湧くご神水を飲んできた。この辺りお寺はどれも大変に古く奈良のお寺にひけを取らないものばかりだが、本当に国宝に指定されているのは最初に見学した明通寺の本堂と三重の塔だけである。

国宝寺見学後は「天の橋立」へと向かう。途中小雨がパラついたが、京都府に入り四時頃に「天の橋立」へ到着、文珠荘の別館「松露亭」へ旅装をとく。旅行会社のお蔭で素晴らしい別館へ泊まることができた。玄関を入るとロビーに通され、「おうす」と文珠の「知恵餅」の接待を受けて部屋へ入った。各部屋とも窓の外の景色が大変素晴らしく、ゆったりした気分で一日目を終わることができた。この松露亭は智恩寺の文珠堂の裏手だったので、夕食前に散策を

楽しんだ人も多く、有名な廻旋橋の廻るところに出会い記念写真を撮った。

夜の宴席はカラオケを入れずに、ゆったりと美味しい京風の会席料理を楽しんだ。

第二日目　晴

朝食後、バスにて傘松公園へ向かった。「天の橋立」名物の「股のぞき」ができるお立台へ行った。往きはケーブルカーで景色をみながら団体で登り、帰りはリフトで一人ずつのんびりと下りてきた。

「股のぞき」は、お年寄りは身体がまがらず苦労していて、女性ははずかしがりながらも折角来たので全員覗いた「天の橋立」は確かに空にかかった橋のようで素晴らしい眺めであった。

最近では反対側の山から見た景色がよろしいようでテレホンカードにもなっていた。

その後バスで伊根湾へ向かい伊根湾巡りの遊覧船に乗った。カモメに餌をやりながら静かな湾を巡り、有名な舟屋（1階分が海面に面し舟の駐車場のようになっている木造家屋）が立ち並ぶ風景を眺め写真を撮ったりスケッチをした。

昼食は、ここで獲れた新鮮な魚の刺身でプリプリとしていて大変美味しかったが、反面お酒の量がすすんでしまった。

昼食後は京都市へ向かって出発、福知山、園部、大江山を通る。当初この旅行を計画した折にはこの大江で和紙の製紙工場や伊勢古宮等を見学する予定であった。この丹後の国の大江山は百人一首に詠まれている大江山と思われがちだが、そうではなく酒天童子の伝説の残る処である。

百人一首の大江山は丹波国桑田郡で京都市西京区大枝町、山城と丹波との国境）後世になって光秀で有名になった京都市と亀岡市との境にある「老ノ坂峠」の古名が大江山である。

残念ながら丹後の大江山は車窓から眺めただけであった。昼食で飲んだお酒がバスの揺れで程よく回り皆眠っているうちに京都駅に着いた。

二日間天気にも恵まれ事故もなく楽しい旅行ができたが最後に小式部内侍が百人一首に詠んだ歌を記したい。

大江山いく野の道の遠ければ
未だふみも見ず天の橋立

（文責・松岡誠一郎）

支部の動き

8月7日㈬'96中央区産業文化展製本・印刷分科会（11時30分～13時30分）於・支部室

8月19日㈪中央区産業文化展実行委員会（10時30分～12時）於・中央区役所

8月23日㈮第2回京橋支部研修会（17時～19時）於・金印健保会館7階会議室「改正消費税」講師・京橋税務署担当官

9月5日㈭本部支部長会（15時～17時）於・印刷会館4階、十文字支部長出席

9月11日㈬中央区産業文化展実行委員会（10時30分～12時）於・中央区役所

9月12日㈭部長・監査・地区長会（12時～13時30分）於・支部室

9月12日㈭～14日㈯プリンテック'96東京、開催（10時～17時）於・東京国際展示場「東京ビックサイト」東3・東5・東6ホール

9月24日㈫〃敬老の集い〃、（10時30分～14時）於・明治神宮参集殿・神楽殿、京橋支部7名参加

9月28日㈯文化堂印刷㈱小田原本社工場見学会（14時～15時30分）支部役員等参加

9月28日㈯部長・監査・地区長会（16時30分～18時）於・箱根湯本、富士屋ホテル、会費1万5千円

1、各種委員会報告（出版委・小企業委・構造改善委・商業委）

2、当面する支部事業について

。平成9年新年臨時総会開催準備及び役割分担について
。支部名簿発行について
。中央区産業文化展、会期中の運営について
。支部幹事会開催について
。顧問・相談役・参与の会開催について
。その他の事項

10月3日㈭本部支部長会（15時～17時）於・印刷会館4階、十文字支部長出席

10月16日㈬～19日㈯'96中央区産業文化展〝へそ展〟開催（10時～18時）於・日本橋プラザ3階

11月7日㈭本部支部長会（15時～17時）於・印刷会館4階、十文字支部長出席

11月9日㈯本部第45回「永年勤続従業員表彰式」
。第1部、表彰式（9時30分～10時30分）
。第2部、観劇（11時～15時）於・明治座

11月21日㈭部長・監査・地区長会（17時～18時20分）於・銀座東急ホテル
1、支部長会報告
2、各種委員報告（9／6組織委、9／17出版印刷委、9／20構造改善委、9／25商業印刷委、9／26事務用印刷委、10／1生産技術、管理・営業合同委、10／9環境保全委、10／14総務委、10／15労務委、10／18厚生委、10／22資材委、11／8組織委）
3、当面する支部事業について
。事業者台帳、構造改善調査票の回収状況について
。次回部長・監査・地区長会の開催日について

11月21日㈭支部幹事会（18時30分～20時30分）於・銀座東急ホテル「松風の間」、会費5千円

12月3日㈫中央区主催「産業振興懇談会」（18時～20時）於・中央区役所8階
。対象団体・東印工組京橋支部、日本橋支部
。出席者
座長・成蹊大学経済学部教授相原修氏
京橋支部・十文字支部長ほか10名
日本橋支部・石川支部長ほか5名
区側・助役、企画部長、地域振興部長、都市整備部長、企画課長、副参事（計画担当・特命事項担当）、商工課長、都市計画課長
。テーマ・印刷技術の変化と区内印刷業の今後の展望について
・業界における情報化への取り組みと今後の人材育成について

12月5日㈭本部支部長会（15時～17時）於・印刷会館4階、十文字支部長出席

12月11日㈬顧問・相談役・参与の会（17時30分～19時30分）於・銀座東急ホテル「羽衣の間」、会費1万円

支部員の異動

加入準組合員
・㈱リンクス東京支社・吉田房生氏、銀座4―14―11（銀座地区）7月

脱退組合員
・㈲銀座玉貴堂・玉木登志之氏（銀座地区）12月

慶事

・協和美術印刷㈱（湊地区）浅野知一殿次男御結婚（6月）

お悔やみ申し上げます

▼八丁堀地区、㈱相互美術印刷本社会長、小倉武治殿御逝去（9月）
▼八丁堀地区、㈱白橋印刷所会長、白橋龍夫殿御逝去（10月）
▼新富地区、正進社印刷㈱会長、高橋　茂殿御逝去（10月）
▼月島地区、誠文社印刷㈱取締役相談役、荒川佐吉殿御逝去（10月）
▼銀座地区、冬水印刷㈱会長、永島冬二殿御逝去（12月）
▼湊地区、㈲中山印刷所社長、中山英男殿御逝去（12月）

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。昨年末の発行予定でしたが、年末行事記事の掲載が手間取り、年越しとなりました。早々にご寄稿された方には申し訳ありませんでした。（横田）